

優秀賞

職員オリジナル防火絵本 「さみしがりやのびっぴ」



岡山県 倉敷市消防局

事例類型 IV 他団体との連携 / V 人材育成 / VI 広報活動

取組期間 令和 5 年 3 月から

背景

倉敷市消防局では、予防広報において様々な取組を行っている。中でも特に小学生を対象とした「オリジナル脱出ゲーム」は、非常に好評だった。防火について、「目で見て学び、考え、実行する」というスキームが、子ども達の理解や記憶に直結したのではと考えた。

そこで、子ども達への防火広報をより浸透させるために、電子端末での操作が困難な未就学児にも、馴染みのある「絵本」を題材に選んだ。職員自らが物語を作り、職員自らが描いたオリジナル防火絵本「さみしがりやのびっぴ」を作成し、当市の防火協会、幼年少年女性防火委員会から協賛を得て発行した。



内容

この物語の主人公は「びっぴ」と呼ばれる小さな火種のキャラクターである。びっぴはいつも皆のために火を起こしてくれるが、さみしがりやな性格。そのため、一人にされると、皆に気付いてもらおうと、大きな火災になってしまう。消防車が駆け付け消火されるのだが、最後にびっぴは、泣きながら言う。「さみしいのはだいきらい、もうひとりぼっちにしないでね」と。「火は身近だが恐ろしいものでもある」というメタファーを伝え、子ども自身が「火とは何?」と考えてもらうことが狙いだ。

【防火絵本「さみしがりやのびっぴ」の内容（一部抜粋）】

ぼくは

さみしがりやの

びっぴ

ひとりぼっちが

だいきらい

みんなのやくに

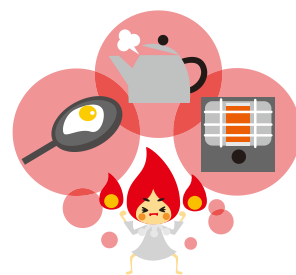
たつために

ぼくは

がんばってるんだ

だから

ひとりぼっちにしないでね



おとーさん

ここだよー

おかーさん

さみしいよー



おとうさん

おかあさん

やっときてくれた

さみしかったよ



職員が防火絵本を作成する際に、特に工夫したのは、以下の3点である。

① 親しみやすいデザイン

びっぴも含め、子どもの好きな丸形を多用したことで、安心感ある作画とした。また、文字フォントもUDを採用し、読みやすくしている。まずは、手に取り、読んでもらえることが、防火の学びに繋がる要素だと考えた。

② 優しい色使い

原色を使用せず、淡い配色を心掛けた。炎などを描く際も柔らかい赤系色を重ねている。温もりのある作画がスムーズに目に入ることで、記憶の定着効果を狙った。

③ 想像が膨らみやすい物語

子どもへの防火広報では、「火遊びをやめよう」など、「火」イコール「悪いもの」という視点で行っていた。さらに一歩進み、火をいたずらに恐れるのではなく、「火をひとりぼっちにしないこと」イコール「火を正しく使うこと」が大切であると子どもが自然に考えられ、話し合うことのできる構成とした。

成果

発行された防火絵本は、秋季火災予防運動にあわせて、市内の図書館、公民館、児童館等の35の児童関係施設に配布した。図書館では、贈呈式を行い、読み聞かせの機会や消防特設コーナーを設けて来館者へ強くアピールした。その甲斐もあってか、配布から1か月以上たっても（令和5年12月時点）、常に貸出率は100%に近い。

また、幼年消防クラブ（市内25クラブ、延べ1,386名）にも配布し、所属する保育園などで読み聞かせを行った。子どもたちからは「びっぴがひとりぼっちだと、火事になるよ」「ひとりぼっちってどういうこと?」などの会話が飛び交い、能動的な思考から習熟へ繋がるのが期待できた。

市外、県外からも多数の問い合わせがあったため、当局のInstagramやYouTubeのアカウントにも読み聞かせ動画を掲載している。

このオリジナル防火絵本「さみしがりやのびっぴ」で学んだ防火の種を子どもたち自らが育てていけるよう、今後も取組を継続する。



配布先での読み聞かせの様子

特記事項

「消防職員自らが作成した防火絵本を使っの広報」ということが注目され、地方新聞から取材を受けた。（山陽新聞：令和5年12月14日版に掲載）また、消防関係誌（週刊情報、近代消防等）にも掲載された。この防火絵本を配布してから、多数の問い合わせがあるため、増版も計画中である。